

学校プール施設のあり方の検討状況について（中間報告）

1. 経緯

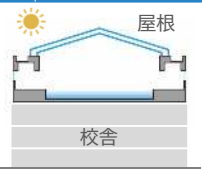
品川区では、現在、すべての区立学校（46校）にプールを設置しており、水泳授業は、生命を守る術を学ぶ機会として、また、体力向上や健康増進の観点からも果たす役割は大きい。加えて、災害時にはプールの水を防火・消火用水、生活用水として活用するなど重要な機能を担っている。

一方で、昨今の猛暑や豪雨等の気象変動に伴い、水泳授業の中止回数が増加するなど、授業の計画的実施が難しくなっている。

こうした背景を踏まえ、水泳授業の実施率向上に資する施設のあり方や、授業実施方法について検討を進めている。

2. プール施設の現状

- 学校改築時は、屋外プール整備を基本に、プールの重層化により敷地の有効利用を図っている。
- 30クラス相当以上の大規模校を計画する場合には、水泳授業の効率実施が可能な開閉式屋根の設置を検討することとしている。
- 義務教育学校を中心に屋内温水プールとして整備し、一般向けの施設開放も実施している。

プール種別	①	②	③	④
	屋内プール (温水対応)	屋上プール (開閉式屋根)	屋上プール (屋根なし)	平置プール (屋根なし)
整備 イメージ				
整備校数 (※1)	5校	3校	17校	19校
	改築 小 中 義務	改築 小 中 義務	改築 小 中 義務	改築 小 中 義務
	既存 小 中	既存 小 中	既存 小 中	既存 小 中
水泳授業 実施率 (※2)	100%	99%	94%	82%
天候影響	◎	○	△	×
敷地有効活用	△	◎	◎	△
法的制約等	△	△	○	○
コスト	整備段階 (※3)	約 13.7 億円/校	約 1.8 億円/校	近年事例なし
	運用段階 (※4)	約 15.4 億円/校	約 4.7 億円/校	約 3.7 億円/校

※1 令和7年9月現在。改築工事中でプールを解体した学校（源氏前小、浜川中）を除く。
※2 「令和6年度水泳授業実施状況調査」による。水泳授業の予定時数に対する実施時数の割合を算出し、その全校平均。
※3 近年の改築校実績より試算した額
※4 大規模改修費・修繕費・清掃費・水質管理費・光熱水費等の合計額（60年間）

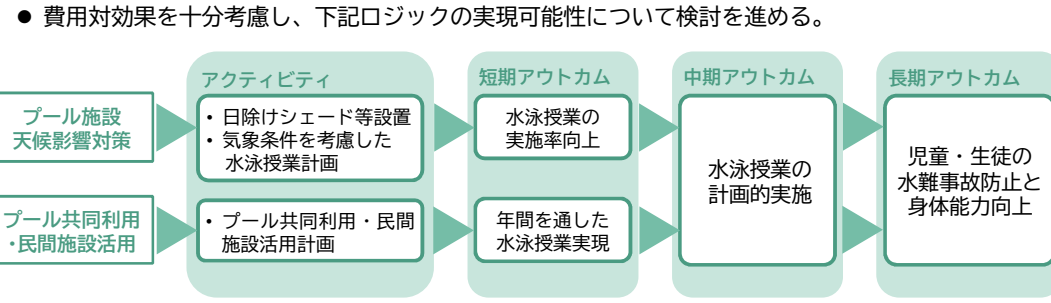
3. 水泳指導の実施状況

- 各学校において、小学校・義務教育学校前期課程は10時間程度、中学校・義務教育学校後期課程は8時間程度の授業時数を計画し、概ね6月中旬～9月上旬の期間で実施している。
- 水泳授業では、テクニカルアドバイザーなどの外部指導員を活用した体制を組み、教員の負担軽減と併せ、技術指導の充実や安全確保に努めている。

4. プール施設の課題

- 天候による影響
 - 猛暑や豪雨等の気象変動に伴い、屋外プールを利用する学校において、水泳授業の中止回数が増加している。プール種別④（平置プール）でその傾向が大きく、下記要因が考えられる。
 - 風通しが悪く熱がこもりやすい
 - 周囲の建物や道路などからの輻射熱の影響を受けやすい
 - 夜間の放射冷却効果が低く、水温が下がりにくい
- コスト
 - プール種別①～④間での、整備コストおよび運用コスト差が非常に大きい。
- 改築中の代替施設確保
 - 改築工事が長期化傾向にあるため他校プールなど代替施設の継続確保が難しくなっている。
 - 施設利用に係る調整や移動時の安全確保など教職員の負担が大きい。

5. 課題解決に向けた検討の方向性

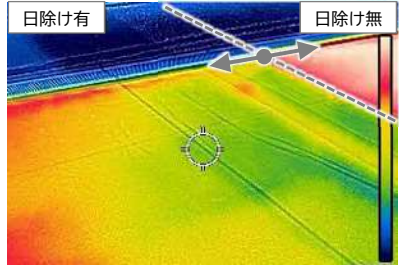


6. プール施設天候影響対策の実施状況

- 令和7年6月下旬、効果実証のためプール種別③に日除けシェードを部分設置した。
- プールサイド表面およびプール水面で、それぞれ温度低減効果を確認した。水泳授業中は、準備運動スペースや見学スペースとして活用されている。



日除けシェード設置状況



サーモグラフィーによる表面温度測定

7. 今後の進め方（令和7年度中）

- 「令和7年度水泳授業実施状況調査」を実施する。
- 天候影響対策を拡充する。（既存校に日除けシェード等設置、設計中の改築校の計画に反映）
- 温水プール共同利用を計画する。（改築工事中の学校）
- 「学校プール施設のあり方」を取りまとめる。